⑫公開特許公報(A)

平2-80683

∰Int. Cl. ³

識別記号

庁内签理番号

匈公開 平成2年(1990)3月20日

D 21 C 5/02 C 12 S 3/08 8118-4L 7803-4B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

公発明の名称 古紙の脱墨処理法

②特 颗 昭63-203827

②出 頭 昭63(1988)8月18日

②発明者福永

信 幸 東京都江東区東雲17日10番6号 王子製紙株式会社中央

研究所内

②発明者 喜多

遊 東京都

東京都江東区東雲1 丁目10番6号 王子製紙株式会社中央

研究所内

愈白 頭 人 三子製紙株式会社

東京都中央区銀座4丁目7番5号

③代 洭 人 弁理士 中 本 宏 外2名

朔 起

1. 另明の名称

古紙の反当処理法

2.有許請 京の延囲

パルブ選度3~10%の古紙スラリーに少なくとも1世類のセルラーゼを含む原業を添加して辞書処理し、次いで脱墨剤処理するととを特徴とする古紙の脱墨処理法。

1. 角列の評細な説明・

(産業上の利用分野)

本発明は、健康を用いた古紙の収益処理法に まするものである。さらに詳しくは、本発明は セルロース分解辞某又はこれとへミセルロース 分解辞業、ベクナン分解研禁、メーグルコンダ 一世等の多環類分解研集の併用による処理工程 を収益処理工程の前に設けることにより、より 白色度の高い高品位のパルプを製造する方法に 関するものである。

(従来の技術)

従来の古紙の脱墨処理法は、アルカリシよび

界面活性剤を含む脱出処理によりインキを利益 する工程とフローテーション法、洗浄法、ある いは今の折衷法によりインキを除去する工程と から収る。

すなわち、水銀化ナトリクムや炭酸ナトリクムや炭酸ナトリクムや炭酸ナトリクムや炭酸サトリクムや炭酸サトリクムを炭酸サトリクムを炭酸サトリクムを炭酸 を受易にし、皮膚を受易にし、皮膚を受力を水中に安定とされて、皮膚を受ける。そしての近々により利用したインやを除去するものである。

しかし、近年、コンピューターを用いた印刷技術の進歩により新聞をはじめ、オフセット印刷に用いるオフセットインキは、凸版インキに比べきまれる樹脂分が多く、これが空気酸化を受けて重合し、健機にかたく優増するため、インキが利難しにくい。また、インキ粒子は、現価性に乏しいため、気息への付着が悪くフローチーショ

ン法では除去したくい。

とのことは、近年の折開用紙の軽量化に伴う 相対的なインキ量の増加とともに脱インキ性が 低下し、色上がりが悪くなる原因となつてかり、 るが、紙の使用中に堺菜が失活しあく、! きゅ そのためよりよい放出法が望まれている。

例えば、特開昭59-9299号公報には、 界面活性別及びセルラーゼを含有する脱量剤が **延案されているが、用いられている群果は、一 段に入手し難いアルカリセルラーゼであり、説 邑处理にコストがかかるという欠点を有する。**

また、特開昭63-59494号公租には、 アルカリ射性セルラーゼを用いる古紙の袋イン * 方法が提案されているが、との方法は児島処 理と同時あるいは脱基処理後に酵素処理を行う ため、乔加英品の後度が高いとセルラーセを失 活させるおそれがある。

さらに、 特公昭 5 7 - 5 5 5 2 0 号公報 (U8 302323号)は、紙シートに併業処理を実 **治している例で、低シート製造工程中の仕上げ 支換前の混つた低ウェブに対し、セルラーゼ界**

キを複雑からさらに剣雕することが必要である。 が、紙の複雑成分は、セルロース、へミセルロ ース、ベクテン、リグニン等であり実際にはと れらの成分が複雑に母合している。

本発明はこれらの機能成分のうち、セルロー スを分解することができるセルラーセを古紙パ ルブに作用させ、パルブ中の各成分間の結合を 段和することにより複雑に付着しているインキ の利用を容易にするものであり、その結果、次 の工程の視慮剤処理がより効果的に行われるよ うになり日色度の高い説出パルプを待ることが 可能になる。

本発明にかける偉業処理は、セルラーゼを早 班で用いてもよいが他の多糖類分解解素と併用 してへミセルロース、ペクナン等を分解すると とにより効果はさらに向上する。

本発明における農業処理は歴景が活性を示す **出かよび国度で行なり必要がある。即ち、 3.5** ~ 7.0 の範囲内の出及び 2 0 ~ 7 0 での軽照内 の温度で併ま処理を行えりのが好ましい。

果複合剤の希摩水路板を塗布することにより。 用はその紙を腐棄する原に水に属らすことに: り紙が容易にかつ速やかに分解されるもので、 素蛋白により低が腐食され易く、強度劣化をと き起とす等の不都合がある。

(発明が解決しようとする課題)

本発明は、少なくとも1種類以上のセルラ: せを含む併業類を用いて古紙の併業処理を介。 ことにより、従来法では、充分利権出来され たインキの別題を容易にし、白色度の私いま、 位の設量パルブを得ることの世来る古紙の作金 処理法を提供するものである。

(課題を解決するための手段)

本発明は、パルブ濃度 5 ~ <u>1 0 %</u>の古紙スペ リーに少なくともセルラーゼを含む健康を存っ して屏景処理し、次いで説呂利処理することを 特徴とする古紙の良島処理法である。

古紙から白色度の高い脱量パルプを製造する ためには、従来法では、除去できなかつた!。

- 舞業類としては、セルラーゼ又はセルラード とへミセルラーゼ、ベクチナーゼ、メークルコ シダーセ等のセルラーセ以外の複雑収分を分り しうる多類類分解療業を用いればよく、動展制 放生物界に広く分布しているものを使用でさき, 市販の酵素としては、 Serve 製のセルラーで

TC、協和服師工業株式会社製のドリセラーで Pluka 社製のベクチナーゼ (Fungal origin . シグマ社製のま・グルコシメーセ等を挙げるこ とができる。

本発明における群果処理は最易剤処理前のご 見で行うととが異ましく、その場合、群果点で 登は、絶吃古紙重量当り0.0 1~1 重量分好に →しくは 0.0 5~ 0.5 重量分である。 伊黒旅 河間 が 0.0 1 重量 22 未満では十分な民 出効果が得る れなくなり、一方1度最多を包える量を節葉 てもよいが説出効果のより以上の向上は認める れたい。

- またご 煙茶を抑加する古紙スラリー濃度は! つりの複数者、好まらどは3.5~5 放置器でき

さらに、原果処理の時間は 0.5 ~ 5 時間、好 こしくは 1 ~ 4 時間である。処理時間が 0.5 時間未得では原果の効果が充分発揮されず、 一方 5 時間を越えて 6 、 その効果は気打ちとなる。

(実施明)

以下、実施例により本発明を詳細に説明するが、本発明はこれに限定されるものではない。

行つた。 フローテーション 処理 後、 パルブ 通度 が1 3 岁になるまで 最超 した。

内度パルア 通復を 1 名 漫度 に なるよう に 希釈し、 TAPP I シート マシン に て パルブシート を 作製した。 作製した パルブシート を 用い、 ハン メーロ 色度 計により 白色度 を、 色度 計により 明 式を 例定した。 又、 1 四 2 当りに ある 0.2 無以 この未 収 品 機 雄 の 本数 (以下、 点 と が と 称 する) を 例定した。

その結果を表1に示す。 なか、ここで用いた ま女はセルラーゼT c (Serva 社)、ドリモラ -ゼ(Sp. 和発解株式会社)、ベクテナーゼ (Fluxa 社)、 メーグルコンダーゼ(シグマ社 a) てある。

表1から明らかな如く、 収益処理にセルラーマを用いることにより、 従来法(原気処理なし)によして良質の収益パルブが得られており、 さっに、セルラーゼと他の多種類分解原象を併用することにより、より良質の収益パルブが得られており、 本発明の効果が確認された。

尚、栗品低加量は対色医療経費量当りの%で示す。

実施例及び比較例

新聞古紙を1~200四方に設断设度施し、機度5.5%の古紙スラリーとした。この古紙スラリーとした。この古紙スラリーに各種母素を扱りに示す 前加量で添加し、さらに2分間短解した。

45 でで3 時間 静健したば、水線化ナトリクム 0.5 %と古紙再生用設置列として脂肪酸病等体系の D I - 600 (花王珠式会社製)とはイオン系の D I - 370 (花王珠式会社製)をそれぞれ 0.5 6%、 0.0 4% 遊加し、 2分間使用した。 40 でで30分間放置した後、脱水して30分間放置した後、脱水して30.5%、水酸化ナトリクム 1.2 2%、 建酸ナトリクム 2.2 4% を添加し、 55 で 2 等間景日を行つた。

その後、パルプ選度が1%になるように含むし、40mで10分間フローテーション処理を

Æ 1

	73				
	情ま及び降加重(%)	日色度(等)	ipi 4	(40) m)
#MM1	セルターゼエビ	0.0 5	4 1.0	11.5	5.5
2	,	0.1	4 4.5	7 1.5	5.9
3	•	J.5	4 4.2	7 1.0	5. 9
4	ドリセラーゼ	0.1	4 4.2	7 1.5	3.9
5	セルラーゼTC	0.1		 	† -
	ベクナナーセ	9.1	4 6.1	7 2.5	5.9
6	セルラーゼIC	ð.1	i	Ì	
	1-1ルコンダーゼ	9.1	4 5.0	7 1.2	4.0
7	ドリセラーゼ	0.1			
	ベクテナーゼ	0.1	4 5.7	7 2.5	5.5
8	ドリセラーゼ	0.1			
	1・クルコンダーゼ	0.1	4 5.0	7 1.6	3.8
七数例1	ベクチナーゼ	0.1	4 5.2	7 0.8	5.4
2	1- クルコンダーゼ	0.1	4 2.8	6 9.5	5.7
\$	辞末処理なし		4 2.6	6 9.6	5

(発労の効果)

THE PROPERTY OF THE PROPERTY O

本発明の実施によつ グが少なく、日色 変の高い高品位の収出ハルブを得ることが可能 である。

 特許出則人
 王子以抵除式会社

 代 理 人
 中 本 宏

 问 # 上 紹

 同 吉 復 佳

(12) Laid-open Patent Gazette (A)

(51)Int.Cl³

Identification symbol

Internal reference

No.

D21C 5/02

8118-4L

C12S 3/08

7803-4B

Request for examination: Not requested. Number of claims: 1

Method for deinking treatment of waste paper

(21) Appl. No. Sho 57-170637

(22) Appl. date -29 September 1982

(72) Inventor

N. Fukunaga

(72) Inventor

Kita

(71) Applicant

Oji Paper Co., Ltd

(74) Representative Patent attorney Nakamoto, 2 others

SPECIFICATION

1. TITLE OF INVENTION

Method for deinking treatment of waste paper

2. SCOPE OF CLAIMS

A method for deinking treatment of waste paper, characterized by enzymatically treating by the addition of at least one kind of cellulase to a slurry of waste paper of pulp concentration 3-10 %, and then treating with deinking chemicals.

3. DETAILED DESCRIPTION OF THE INVENTION

Field of industrial utilization

This invention relates to a method for deinking treatment of waste paper by use of an enzyme. More specifically, it relates to a method for producing pulp of higher brightness and higher quality, by including a step of treating by use of cellulase or by the combined use of this together with a polysaccharide hydrolase such as hemicellulose, pectinase or β-glucosidase.

Translated November 21, 1993/sk



Background art

Known methods for deinking treatment of waste paper consist of a step to release ink by a deinking treatment comprising an alkali and a surfactant, and a step to remove the ink by flotation, rinsing or a combination of these.

Thus, alkalis such as sodium hydroxide and sodium carbonate penetrate between the fibers and the ink and weakens the bond to facilitate the release of ink, and deinking agents facilitate the penetration of alkali between fibers and ink and stabilize ink and oil in the water so as to prevent readsorption to the fibers. Next, the released ink is removed by flotation, rinsing or a combination of these

However, in recent years, due to the advance of printing techniques by use of computers, offset printing has increased, especially for newspapers. The offset ink used in this offset printing contains more resin than relief printing ink, this polymerizes when exposed to air oxidation and attaches firmly to the fibers, so the ink is difficult to release. Also, the ink particles have poor lipophilicity and do not adhere well to the foam, so they are difficult to remove by flotation.

This, along with the use of newsprint of lighter weight in recent years and the accompanying increased relative weight of ink, has decreased the deinking ability and caused a worse coloring, so an improved deinking method is desirable.

As an example, JP-A 59-9299 proposes a deinking agent comprising a surfactant and a cellulase, but this has disadvantages in that the enzyme used is alkaline cellulase which is generally difficult to obtain and the deinking treatment is costly.

JP-A 63-59494 proposes a method for deinking waste paper by use of an alkali-resistant cellulase; in this method the enzymatic treatment is conducted during or after the deinking treatment, so there is a risk of inactivating the cellulase because of a high concentration of the chemicals added.

JP-A 57-35320 (US 302323) is an example of conducting an enzyme treatment of the paper sheets; by applying a dilute solution of a cellulase complex to the moist paper web before the final drying in the production of paper sheets, the paper becomes easily degradable when soaked in water after use; however, the NOV-13-98 18:30 FROM: ENZYMATIC DEINKING TECH

enzyme tends to lose its activity during the use of the paper, the paper rots easily because of the enzyme protein, and the paper strength is reduced.

Problems to be overcome by the invention

This invention provides a method for deinking treatment of waste paper which makes it possible to release ink which could not be adequately released by previous methods and to obtain a high-grade deinked pulp of high brightness, by use of enzymes comprising at least one kind of cellulase.

Means of overcoming the problems

This invention is a method for deinking treatment of waste paper, characterized by enzymatically treating by the addition of at least one kind of cellulase to a slurry of waste paper of pulp concentration 3-10 %, and then treating with deinking chemicals.

In order to produce pulp of high brightness from waste paper, it is necessary to release the ink which could not be removed by previous methods from the fibers; the fiber components of paper are cellulose, hemicellulose, pectin, lignin etc., and these components are bound in a complex.

This invention lets cellulase which degrades cellulose among the fiber components act on a waste paper pulp and facilitates the release of ink attached to the fibers by softening the bonds between the various components in the pulp; as a result, the subsequent step of treating with deinking agents becomes more efficient, and it becomes possible to obtain a deinked pulp of high brightness.

The cellulase can be used alone in the enzyme treatment according to this invention, but the efficiency is further increased by using it together with other polysaccharide hydrolases to hydrolyze hemicellulose, pectin etc.

It is necessary to conduct the enzyme treatment according to this invention at a pH and temperature where the enzyme displays activity. It is therefore preferred to conduct the enzyme treatment in the pH range 3.5-7.0 and the temperature range 20-70°C.

The enzyme can be cellulase or cellulase together with polysaccharide hydrolases which can hydrolyze fiber components other than cellulose, such as hemicellulase, pectinase or β-glucosidase; enzymes widely found in animals, plants and microorganisms can be used.

Examples of commercial enzymes are Cellulase TC from Serva, Driselase from Kyowa Hakko, Pectinase (fungal origin) from Fluka, and β-glucosidase from Sigma.

It is preferred to conduct the enzyme treatment according to this invention before treatment with deinking agents; in this case, the dosage of enzyme is 0.01-1 weight % of dry waste paper, preferably 0.05-0.5 weight %. At an enzyme dosage below 0.01 weight % the deinking effect becomes insufficient; more than 1 weight % can be added, but no additional deinking effect is seen.

The concentration of the waste paper slury to which the enzyme is added is 3-10 weight %, preferably 3.5-5 weight %. At a slurry concentration below 3 %, the effect is smaller because the enzyme is diluted; if it exceeds 10 weight %, it becomes difficult to spread the enzyme to the entire slurry, and it becomes difficult to disperse the enzyme evenly, so this is not preferred.

The duration of the enzyme treatment is 0.5-5 hours, preferably 1-4 hours. At a duration of less than 0.5 hours the effect of the enzyme is adequate, and even if it exceeds 5 hours, the effect reaches a peak.

In this invention, any kind of waste paper can be used; examples are newspapers, magazines, advertisements and leaflets. a waste paper concentration of 3-10 weight % is suitable; in consideration of the pH during the enzyme treatment, a neutral or slightly acidic deinking agent may be added in an amount of 0.07 - 0.2 weight % of the waste paper dry weight.

Working examples

Below, the invention will be described in detail by way of examples; however, the invention shall not be restricted thereby. The amounts of chemicals are given in % of the weight of dry waste paper.

Working example and comparative example

Old newspapers were shredded into pieces of 1-2 cm and disintegrated to make a 3.5 % waste paper slurry. The pH of this waste paper slurry was 5.5. Various enzymes were added to this waste paper slurry in the amounts shown in Table 1, and disintegration was continued for 2 minutes.

After standing at 45°C for 3 hours, 0.5 % of sodium hydroxide and 0.36 % and 0.04 %, respectively, of fatty acid derivative DI-600 (product of Kao Corp.) and anionic DI-370 (product of Kao Corp.) as deinking agents for recycled paper were added, and stirring was done for 2 minutes. After standing at 40°C for 30 minutes, the pulp was dewatered to 15 % concentration, then 0.3 % hydrogen peroxide, 1.22 % sodium hydroxide, and 2.24 % sodium silicate were added, and bleaching was conducted at 55°C for 2 hours.

Then the pulp was diluted to 1 % concentration, and flotation treatment was conducted at 40°C for 10 minutes. After the flotation, the pulp was concentrated to 13 % concentration.

The pulp was again diluted to 1 %, and a pulp sheet was made in a TAPPI sheet machine. The whiteness of the produced pulp sheet was measured on a Hunter whiteness meter, and the brightness was measured on a colonmeter. Further, the number of un-deinked fibers above 0.2 mm per cm² was determined ("black nairs").

The results are show in Table 1. The enzymes used were Cellulase TC (Serva), Driselase (Kyowa Hakko), Pectinase (Fluka) and β-glucosidase (Sigma).

As seen from Table 1, a deinked pulp of better quality was obtained by the use of cellulase for the deinking treatment than with the previous method (no enzyme treatment), and a deinked pulp of even better quality was obtained by the use of cellulase together with another polysaccharide hydrolase enzyme, so the effect of this invention was confirmed.

Table 1

1 (1 %) (1 %) 1 (1 %) (1 %) 2 (1 %) (1 %)	Enzyme and dosage (%)	White- ness (%)	Bright- ness	Black hairs (per cm²)
Ex 1	Cellulase TC	0.05	5,44.0	71.5	4.3.8
Ex. 2		0.1	244.5	,71.3 ×	3.9
Ex 3		0.5	44.2	71.0	3.9
Ex. 4	Driselase (2-3)	0.1	44.2	771.5	3.9
Ex. 5	Cellulase TC ().1 🛬			
).1	346.1	72.5	3.9
Ex. 6	41-11	0.1 🌫			7.2
	* * * * * * * * * * * * * * * * * * * *).1 .S	<i>‡</i> ,45.0	71.7	4.0
Ex. 7	Driselase (0.1 . 🧐	35 - 31 · 3		
	Pectinase (0.1	45.7	72.3	. 3.3
Ex. 8	Driselase	0.1			
	β-glucosidase . (0.1	45.0	71.6	3.8
Comp. Ex. 1	Pectinase (0.1	:: 43.2	70.8	5.4
Comp. Ex. 2	β-glucosidase (0.1	42.8	69.5	5.7
Comp. Ex. 3	No enzyme treatment		42.6	69.6	5.7

Effect of the invention

By the practice of this invention, it is possible to obtain a high-grade deinked pulp having few black hairs and high whiteness.